

## 米軍関係者住居と地域の関係性について

— 北谷町砂辺区を事例として —

### On Relationship between US Base Residents and the Surrounding Community through a Case Study of Sunabe Ward in Chatan, Okinawa

木村 純（京都大学大学院人間・環境学研究科 博士後期課程）

#### 【メンバー】

崎濱 佳代（沖縄リハビリテーション福祉学院 非常勤講師）

#### 【ねらいと目的】

非戦闘構成員を含む米軍関係者の基地外居住は、以前から存在していた。近年、北谷町では民間業者によって大規模な米軍関係者向けの集合住宅が作られている。このような「基地外基地」の問題を調査することによって、これまで見えてくることのなかった関係性を明らかにすることができる。なぜなら、この地域ではフェンス越しの行動に加え、文字通りフェンスを越えた対応も地域住民に課されているからである。

基地との距離のとり方を砂辺地区に起こる問題から明らかにすることができれば、暴力に反対する社会運動論としてだけでなく、権力論や統治の理論の側面からも、基地を考察することを可能にするだろう。基地への多様化するリアリティに関しても大きなインパクトを与えるはずである。また、このことは今まで築き上げられた基地をめぐる諸主体の公共圏や親密圏の歴史的、空間的、心理的な再編成を促すはずである。暴力や経済的な関係であったはずのものが、どのように若者に対して親近感を持たせるような存在になったのか、世代間による意見はどのように異なり、どのように統一されるのか、またそのような若者世代が大きな発言権を持ち始めたとき、基地を抱える地域の公共性はどのようなものになるのかという見通しを立てることも可能になると考えられる。

#### 【活動の記録】

2009年5月12日 木村純、北谷町砂辺、現地調査

2009年6月30日 木村純、琉球大学、砂辺区長松田正二さん講演会

2009年11月26日 木村純、北谷町砂辺、砂辺区長松田正二さんへのインタビュー

2009年12月2日 木村純・崎濱佳代、北谷町砂辺、砂辺区長松田正二さんへのインタビュー

2010年1月11日 木村純・崎濱佳代、北谷町砂辺馬場公園、利用者インタビュー

2010年2月12日 木村純、北谷町砂辺、砂辺区長松田正二さんへのインタビュー内容確認

## 【成果の概要】

成果としては、第一に北谷町砂辺区の歴史的・地理的背景を新聞資料や行政資料などの二次資料に当たって調査した。そこからは、米軍基地に隣接する地域の困難と変わらない米軍機の爆音の被害の様相を知ることができた。第二に、砂辺区を代表する区長さんへのインタビューを通して、基地外基地としての米軍関係者住居への地域の対応や、問題点などがより明らかになった。また、そこから地域住民と米軍関係者との直接的な接触がないということが新たにわかった。つまり、地域の商店や飲食店などでの生活上の接触がなく、住民はその存在を感じているだけだということが明らかになったため、砂辺区の公共施設である馬場公園での聞き取りを行った。この公園は外国人の親子連れも多いので、そこでの接触があると考えたが、公園に来ていた保護者に聞き取った結果、実際にはここでも直接接触がないということであった。子ども同士では遊んだりしているとのことだったが、そもそも言語の問題から話したりすることもないというのが、地域住民の反応であった。事件などが起こることや、何かしらの不安があるということを語る年配の方もいたが、若い保護者の多くは「特に思うところはない」ということであった。第三点目に明らかになったのは、このような奇妙な関係性である。

以上のように、地域でのフィールドワークを通して、沖縄における公共性のあり方がどのような問題点を抱えているのかを把握できたと思われる。当初掲げたねらいと目的には直接触れることはできなかったが、間接的にはその基盤となる研究であり、残されたものは今後の課題としたい。



公園東屋から外国人住宅



